



第3期みやぎ観光戦略プラン 概要版

「みやぎ観光創造県民条例」に基づく観光振興に関する基本的な計画

～みやぎの観光の創造的復興とさらなる飛躍へ～





宮城県（以下「県」という。）は、平成19年3月に策定した「宮城の将来ビジョン」に基づき、観光を経済波及効果の大きい本県経済の成長のカギと位置づけ、県民の参加のもと幅広い分野で観光振興施策を実施してきました。その間、平成20年に開催した「仙台・宮城destinationキャンペーン」をはじめとする誘客活動や県内の魅力ある観光資源の発掘などを通じて、平成22年に過去最高の6,129万人の観光客入込数を記録するなど、大きな成果を上げることができました。

しかし、平成23年3月に発生した東日本大震災によって、本県の観光は壊滅的な被害を受け、原発事故の風評等の影響もあり、本県を訪れる観光客は激減しました。これに対し、県では震災から10年間の復興の道筋を示す「宮城県震災復興計画」を策定し、観光については、「多様な魅力を持つみやぎの観光の再生」を復興実現のポイントの一つに掲げ、観光の復興に向けた取組を推進しています。

この度、近年の観光を取り巻く状況の変化やこれまでの観光振興における課題などを踏まえ、みやぎの観光が震災から再生を遂げ、地域経済と復旧・復興をけん引する役割を果たせるよう、その指針となる新たな計画を策定することとしました。

1 みやぎの観光の現状と課題

観光を取り巻く環境は、平成23年3月の「第2期みやぎ観光戦略プラン」策定時から大きく変化しています。「第3期みやぎ観光戦略プラン」の策定に当たり、本県観光の現状と課題を次のように整理しました。

現状

東日本大震災による影響

- 平成24年の本県の観光客入込数は震災前の85%の5,208万人まで回復
- 平成24年の沿岸部(石巻・気仙沼圏域)の観光客入込数は震災前の約5割の415万人で、内陸部とは対照的に回復が遅れている
- 平成24年の東北地方の外国人観光客宿泊者数は震災前の約4割の12万人で、回復が遅れ
- 平成24年の東北地方の観光客中心の宿泊施設の宿泊者数は震災前の85%の1,471万人で、全国に比べ回復が遅れ



女川町 復旧した宿泊施設

震災以前からのテーマ

- 平成24年度の本県の観光客の地域別の割合は、県内54%、関東地方23%、東北地方16%で、拡大を目指してきた中部以西は1割未満
- 観光客の平均消費額は低下傾向(平成24年度:県内日帰客4.5千円、県外日帰客10千円、県内宿泊客26千円、県外宿泊客36千円)
- 平成25年のDCを通じて、本県の魅力が国内外に発信され、おもてなしの精神が広く県民に浸透した



平成25年DCのおもてなし

課題（必要な対策）

- 被災地訪問と県内各地の観光資源をつなぐなど、内陸部との連携による誘客
- 原発事故の風評払拭と東日本大震災の風化防止とともに、沿岸部の復興状況に応じた魅力ある観光資源の開発
- 訪日リピーターや台湾、香港、東南アジア諸国等へのアプローチ強化、外国人が過ごしやすい環境の整備
- 東北各県のdestinationキャンペーン(DC)での連携を通じた東北地方が一体となった誘客、LCC就航や仙台空港民営化を契機とした観光需要の喚起

- 官民が一体となった継続的な観光キャンペーンのほか、被災地への関心の高まりやLCCを含む国内路線の新規開設などを生かした中部以西からの誘客
- 県内客に比べて平均消費額の高い県外客の観光需要喚起による観光消費額の向上
- 「自然」や「食」などの従来の観光資源の磨き上げのほか、新たな観光資源の創出
- 観光客の多様なニーズに対応できる人材育成や地域ぐるみの受入態勢の整備

2 基本理念

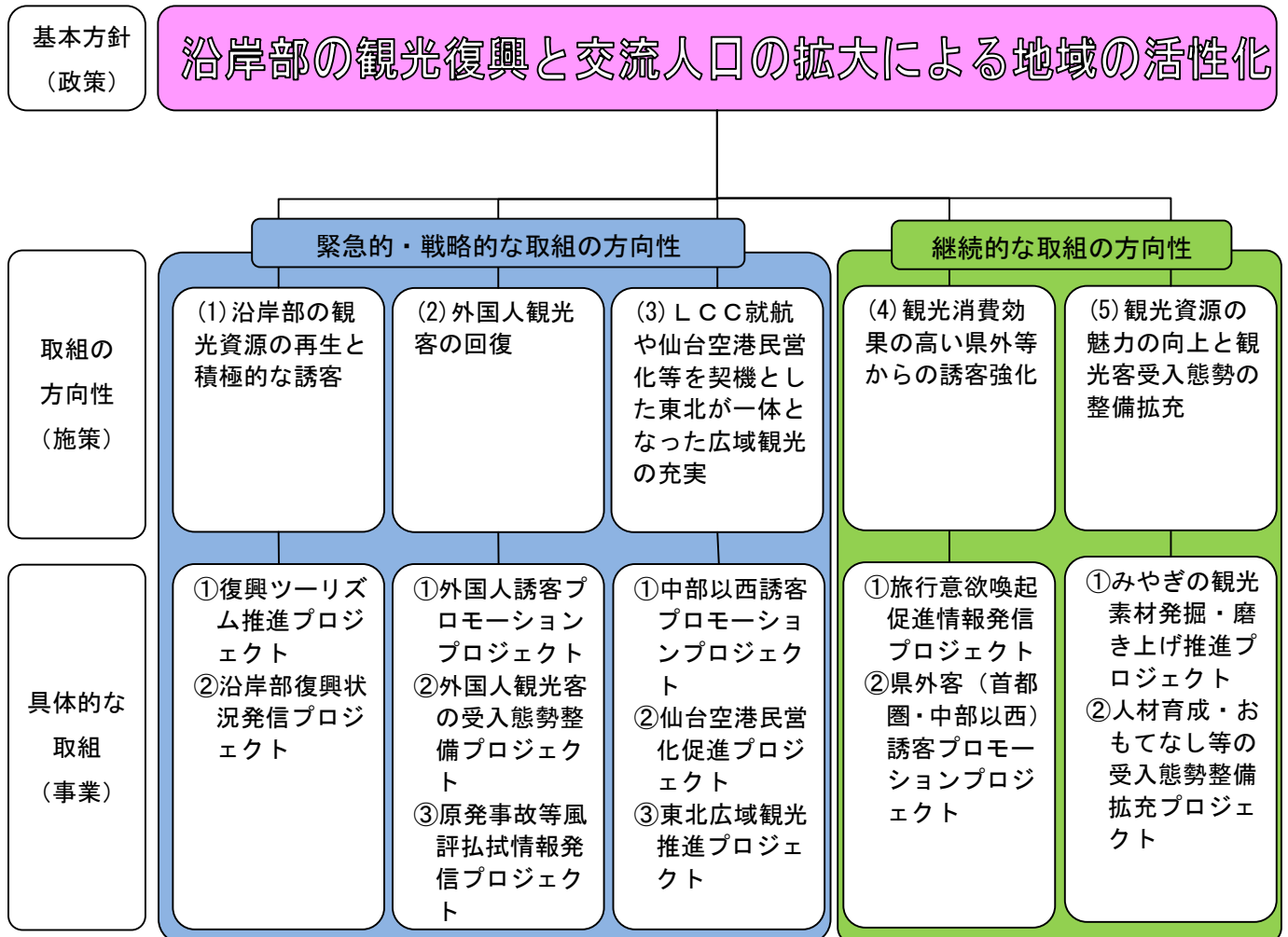
東日本大震災で甚大な被害を受けたみやぎの観光の再生のために、単に震災前の観光の姿に戻すだけではなく、復興の過程で生まれた国内外と結ばれた絆や語り部などの震災の経験を伝承する取組を観光の「種」として、一過性にとどまらない将来の観光資源に大きく育て上げていきます。さらに、東北の観光資源の世界遺産登録や仙台空港の民営化などの追い風を最大限に生かしながら、東北各県や関係諸団体と連携して、東北が一体となった国内外からの誘客を行い、東北全体の活性化を目指します。これに基づいて、本プランの基本理念を次のように定めます。

みやぎの観光の創造的復興とさらなる飛躍へ

3 基本方針と取組の方向性

基本理念「みやぎの観光の創造的復興とさらなる飛躍へ」を推進するため、「沿岸部の観光復興と交流人口の拡大による地域の活性化」を基本方針（政策）に、観光振興に関する取組を実施していきます。

さらに、基本方針の実現に向け、本県観光の現状と課題を踏まえて定めた5つの取組の方向性（施策）に基づいて施策を展開します。5つの取組の方向性は、沿岸被災地の観光の回復や激減している外国人観光客の回復など、「緊急的・戦略的な取組の方向性」と、従来の課題に対応した「継続的な取組の方向性」に区分します。



4 具体的な取組

(緊急的・戦略的な取組の方向性)

(1) 沿岸部の観光資源の再生と積極的な誘客

被災地の復興状況を踏まえ、本県でしか体験できない防災・減災を目的とした旅行やボランティア等で支援をいただいた方々が復興を確認する旅行をはじめとする「復興ツーリズム」の推進、観光施設等の再建支援などの受入態勢の整備のほか、風評の払拭に向けて正確な観光情報や復興情報の発信を図ります。

①復興ツーリズム推進プロジェクト

- 「みやぎ観光復興支援センター」で旅行会社や学校、企業に対して被災地でのボランティアツアーや研修プログラムについての情報提供を行うほか、受入先とマッチングを行います。
- 被災地で震災の体験を語り継いでいるガイドを対象に実施する研修会を支援します。
- 「みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター」で国内外からの教育旅行やインセンティブツアーの受入態勢の整備や誘致の促進、防災、減災教育につながるプログラムの構築に取り組めます。
- 震災で被害を受けた観光施設・設備の復旧を支援します。 など



②沿岸部復興状況発信プロジェクト

- 新聞・旅行雑誌等を活用した観光情報の提供や首都圏キャラバン等による安全・安心と宮城の観光の魅力のPRによって、観光客の誘致につなげます。
- 被災地訪問と本県観光を組み合わせた「復興ツーリズム」の確立に向けて、沿岸部の復興状況や地元のニーズの紹介、観光モデルコースの提案を行います。
- 復興に向けて前向きに取り組む被災地の現状や魅力を伝えることにより、震災の風化防止や全国からの支援に対する感謝、支援意識や復興気運の維持向上のための広報・啓発を行います。 など



(2) 外国人観光客の回復

従来の東アジアの重点市場（中国、韓国、台湾、香港）に加えて、観光客の増加が期待できる東南アジア諸国（タイ、シンガポール、マレーシア等）、親日国をターゲットとして他県等と連携した戦略的な誘客活動や復興支援を縁に始まった海外との交流の継続のほか、受入態勢の整備に加え海外の原発事故等の風評払拭のための正確な観光・復興状況の継続的な情報提供を図ります。

①外国人誘客プロモーションプロジェクト

- 海外の旅行博覧会への出展や旅行会社の訪問、海外のマスコミ招請などによる多様なプロモーション活動を行います。
- アジア地域を中心として増加している海外へのインセンティブツアー（報奨旅行）の招致を進めます。
- 東北各県や東北観光推進機構等と連携して、海外から東北への誘客の取組を強化します。
- 多くの外国人を招致できるMICE（国際会議等）の誘致を積極的に進める団体に補助します。 など

②外国人観光客の受入態勢整備プロジェクト

- 市町村等と連携して多言語対応のパンフレットやホームページ等を作成するとともに、案内看板等を整備します。
- 県内の宿泊施設や観光集客施設に無線LAN（フリーWi-Fi）を設置する事業者に経費の補助を行います。
- 2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを見据えて、大会期間中に大幅な増加が予想される外国人観光客の受入態勢の整備に向けて取り組みます。 など

③原発事故等風評払拭情報発信プロジェクト

- 海外の旅行会社やマスコミを招いて本県観光の安心・安全情報を発信するほか、海外での商談会を開催します。
- 平成 27 年に仙台市で開催される「国連防災世界会議」での観光案内や情報発信を行います。
- 影響力のある海外要人のための復興ツーリズムの観光メニューを整備して海外要人を誘致し、根強い海外の風評の払拭を図ります。

など



旅行博覧会への出展



外国人観光客のトレッキング



マスコミ等招請



旅行会社関係者の招請

(3) LCC就航や仙台空港民営化等を契機とした東北が一体となった広域観光の充実

今後拡大が期待できる国内外からのLCC就航や仙台空港民営化、北陸新幹線や北海道新幹線の開業等を契機として、中部以西からの誘客を推進するとともに、東北各県及び東北観光推進機構等の関係諸団体と連携し東北が一体となった観光資源の魅力の発信などにより、中部以西での知名度の向上と「東北へ行きたい」という旅行意欲の喚起を図ります。

①中部以西誘客プロモーションプロジェクト

- 仙台空港の就航地（中部、大阪（伊丹、関西）、福岡空港）で、航空会社と連携した観光プロモーションを行うほか、雑誌や新聞広告を活用して観光情報の発信を行います。
- 航空会社に対するセールスや要望活動を行うほか、航空旅行の需要を喚起するためのイベントやPR活動を行います。
- 宮城や東北の魅力とともに、全国的に人気の高い伊達政宗公の偉業である慶長遣欧使節出帆 400 年記念事業などを生かした観光PR・誘客活動を行います。

など

②仙台空港民営化促進プロジェクト

- 仙台空港の早期の民営化を目指し、手続きを円滑に進められるよう、関係機関との調整等を行います。
- 「日本初の民間運営空港」を目指す仙台空港を核として復興の加速化を図るため、仙台空港民営化の機運醸成や情報発信を行う官民連携会議を開催します。
- 仙台空港の年間旅客数 600 万人・年間貨物量 5 万トンの目標実現に向けて、調査などを行います。

など

③東北広域観光推進プロジェクト

- 隣接県と連携して、観光パンフレットの相互配置や観光情報の共同発信、合同の観光PRイベントの開催などを行います。
- 東北各県や東北観光推進機構等と連携して、大都市圏などから東北への誘客の取組を強化します。
- 地域の祭りやイベント等の観光素材や震災後に登録された世界遺産等（平泉、慶長遣欧使節関係資料）を活用した旅行商品の造成を支援し、誘客の促進を図ります。

など



航空会社と連携した観光PR



早期の民営化を目指す仙台空港



隣接県や東北観光推進機構と連携した観光PR



慶長使節船「サン・ファン・パウティスタ」イベント

(継続的な取組の方向性)

(4) 観光消費効果の高い県外等からの誘客強化

インターネットや新聞、旅行雑誌をはじめとした多様な媒体や訴求力のあるツールを戦略的に活用し、誘客対象を明確にした上で本県の多様な観光の魅力を発信することで訪問意識を呼び起こすとともに、ポストDC等の様々なプロモーション活動に官民一体で取り組み、首都圏や中部以西等からの誘客促進を図ります。

①旅行意欲喚起促進情報発信プロジェクト

- 宮城県の「みどころ」「イベント」「風景」などの様々な観光情報をICT環境で発信します。ツイッターやフェイスブックなどのSNS環境での提供についても拡充して行います。
- 新聞、旅行雑誌等を活用した観光情報の提供や、首都圏キャラバン等による安全・安心と宮城の観光の魅力のPRによって観光誘客につなげます。
また、震災研修を目的とした教育旅行の誘致を行います。 など



首都圏観光キャラバン



震災研修を目的
とした教育旅行

②県外客（首都圏・中部以西）誘客プロモーションプロジェクト

- ポストDC等の官民が一体となった短期集中型の観光キャンペーンを実施し、観光PR・誘客を行います。
- 宿泊を伴う観光客を増やすため、名所や旧跡などのライトアップや夕方から夜にかけての街あるきなどの企画の実施を支援します。
- プロスポーツ球団やJR等と連携したPRを実施して本県のイメージアップを図り、本県への旅行意欲を喚起します。 など



DCオープニングイベント



プロスポーツとの連携

(5) 観光資源の魅力の向上と観光客受入態勢の整備拡充

本県の誇る「食」・「温泉」・「自然」・「歴史・文化」・「産業」・「祭」・「プロスポーツ」などの地域の特性を生かしたテーマ性・ストーリー性のある観光メニューの構築やニーズに応じた観光資源を創出するとともに、観光客を迎える立場にある県民による域内流動を促進し地域の魅力に対する理解の向上を図ります。

観光客へ快適な旅行を提供するため、DCで培った地域力のさらなる向上、おもてなしを浸透させるとともに、次世代の観光の復興をけん引する人材の育成を図ります。

①みやぎの観光素材発掘・磨き上げ推進プロジェクト

- 祭りや地域固有のイベントなど、従来は注目されていなかった地域の観光素材を発掘し、磨き上げを行います。
- グリーンツーリズムや伊達文化、県産食材などのテーマ性をもった新たな旅行商品の造成を支援します。
- 本県の観光資源を歴史、文化などテーマ性やストーリー性のあるルートを新たに構成し、旅行商品の造成を支援します。
- 観光客のニーズにあわせた民宿、民泊を伴う農漁村体験等のメニュー拡充を支援します。 など



グリーンツーリズム



漁業体験

②人材育成・おもてなし等の受入態勢整備拡充プロジェクト

- 県民総ぐるみで挨拶や笑顔などの身近でさりげないおもてなしを日常的に行えるよう、セミナーや研修会で好事例を紹介します。
- 観光客に対して優良なおもてなしの取組があったと認められる団体等を表彰します。
- 松島高校観光科で、観光産業や関連する産業に貢献できる人材を育成します。
- あらゆる観光客の安全な利用に配慮した自然公園施設の再整備や、観光客が広域的に移動しやすい環境整備のため、観光案内板等を整備します。 など



おもてなし研修



自然公園の歩道整備

5 計画期間・目標

本プランは、平成26年度を初年度とし、平成29年度を目標年度とします。
本県観光の再生に向けて、数値目標として次の7つを設定し、取組の達成度を確認します。

平成29年の数値目標	現況値 (平成24年)	目標値 (平成29年)
① 観光客入込数	5,208万人	6,700万人
② 沿岸部（気仙沼・石巻地域）の観光客入込数	415万人	805万人
③ 宿泊観光客数	888万人	900万人
④ 沿岸部（気仙沼・石巻地域）の宿泊観光客数	38万人	60万人
⑤ 外国人観光客宿泊者数	7.5万人	16万人
⑥ 観光消費額	4,058億円	6,000億円
⑦ 観光客（県外客）に対するアンケート調査での宮城県への再訪問意思率	—	99%

6 取組の進め方

各種計画と連携しながら取組を進めます

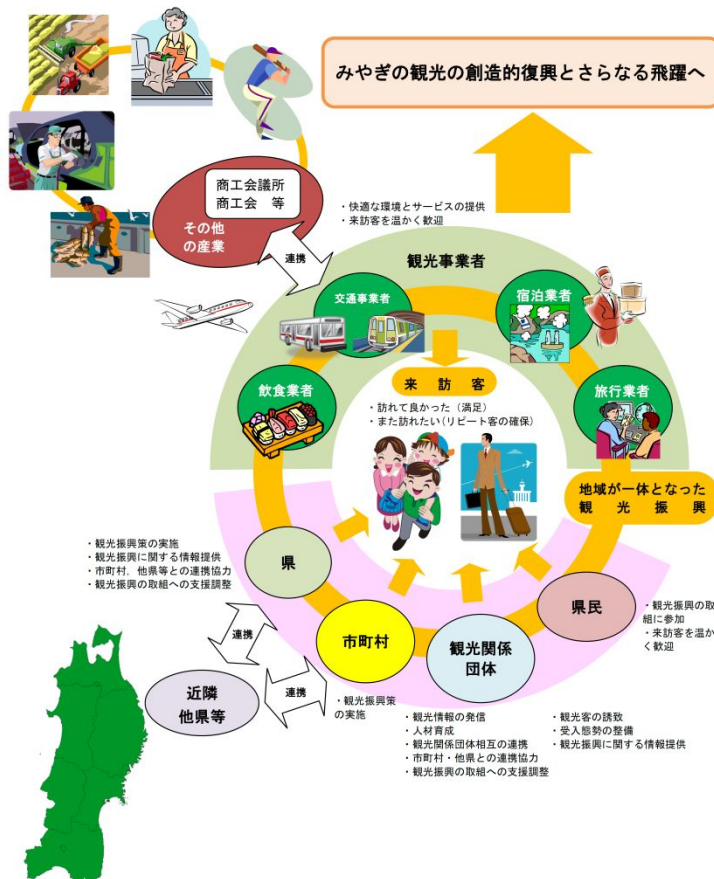
プランの推進に当たっては、県政運営の基本方針である「宮城の将来ビジョン」と東日本大震災からの復興の道筋を示す「宮城県震災復興計画」の下、県の各分野の個別計画や国における「観光立国推進計画」、「東北観光基本計画」など各種計画との連携に努めます。

毎年度事業の達成状況を検証しながら取組を進めます

本プランの進行管理に当たっては、社会情勢の変化に対応するため、PDCAサイクルのマネジメント手法を用い、毎年度事業の達成状況を検証し公表するとともに、その結果を観光再生の取組に反映させることにより、着実な推進を図ります。

幅広い主体と連携して取り組みます

宮城県のみならず、市町村、県民、観光事業者、観光関連団体や関連する多くの産業の関係者がプランの実現に向けて緩やかに連携し、各々が必要な事業費を確保してみやぎの観光の再生の実現に取り組みます。





笑顔咲くたび
伊達な旅
仙台・宮城

Sendai & Miyagi, where smiles blossom

発行 平成26年3月

編集 宮城県経済商工観光部観光課

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8-1

電話 022-211-2823

E-Mail kankoup@pref.miyagi.jp

URL <http://www.pref.miyagi.jp/kankou/>